

地名からみた古代エジプトにおける都市と農村

古谷野 晃

Towns and Villages in Ancient Egypt through the Study of Names of Geographic Locations

Akira KOYANO

集落の復原や遺構の発見が困難なこともあり、古代エジプトの都市・農村の概念はいまだに解明されていない難しい問題といえる。本稿は古代エジプトの集落のある一部の特性をあらわす地名を通して、集落の分布と都市・農村の特性について考察することを目的とする。

その結果、集落地名のほとんどは守護神に関連し、その他に川・山・土地利用・灌漑・交通・交易・社会関係・王権などの地名が見られることがわかった。地域分布をみると、国境地域では砦や武器・井戸の地名が、氾濫原では土地・家畜・動植物の地名が数多くみられる。

キーワード：集落、地名、ノモス、土地利用、市神

The concept of urban settlement in Ancient Egypt has remained unclear because of difficulties in tracing past settlements and few archaeological remains. This paper introduces an approach based on place-names, which have meanings and describes some characteristics of the settlements. This research aimed to investigate the geographical distribution of urban and rural settlements, and to understand the characteristics of settlements in ancient Egypt.

The results indicate that most of the settlement names are related to the gods however the names of rivers, mountains, land-use, irrigation, transportation, trade, social relations, kingship, etc. were also found. The geographical distribution of the place names include the names of many of the forts, weapons, and wells in the frontiers, and the names of many of livestock, plants, animals and land features in the flood plains.

Key-words: settlements, place-names, nomes, land-use, city-gods

はじめに

古代エジプトの集落名の多くは、若干の変容はあるものの、現在までずっと使われている。地域の特性、歴史を表わすともいえる地名研究は、集落を理解する上できわめて重要なツールの1つであると考えられる。地名の意味をベースに古代エジプトの集落を類型化した研究はみられない。本稿では数多くの地名辞典および研究 (Gauthier 1925-31; Muḥammad Ramzī 1953/54; Montet 1956, 1961; Gomaà 1986, 1987 など) をもとに、集落名を意味ごとに分類・類型化を試み、都市・農村に使われる語彙を明らかにした。古代エジプトの都市・農村の概念を把握する第一歩としたい。

1. 集落の語句

都市・農村の古代エジプト語は、時代によって若干変容している。F. ハッサン (Hassan) は集落として *niwt*、*dmi*、*whyt*、*grgt*、*hwt*、*pr* の語をあげている (Hassan 2001: 263)。Erman and Grapow 1925-1955 *Wörterbuch der*

aegyptischen Sprache. Leipzig, J. C. Hinrichs (以下 *Wb.* と省略) の「都市 (Stadt)」の項には、*n(i)wt*、*ḥ(w)t*、*dmi(t)* が、「村 (Dorf)」の項にも *n(i)wt* があげられている (*Wb.* VI. 36, 146)。

通常、「都市」を意味する古代エジプト語は *n(i)wt* で、「町」は *dmi*、「村」は *wḥ(ꜥy)t* とされているが (Gardiner 1947: 2, 14)、その区別概念はきわめて曖昧で、明確な学術的区分ではない。*niwt* や *dmi* も、ある意味では村でもあったからである (*Wb.* V. 455) (表1参照)。

古王国時代、*niwt* を通常の町とすると、*dmi* は神殿・祈祷中心地、*hwt* は王室の権力中心地と考えられていた (Shaw 2003: 70)。一般的に *niwt* は首都や地方中心都市・州都などに使われ、*dmi* はより小さな集落で、神殿や祈祷中心地に使われた。*dmi* は *niwt* と *whyt* の中間に位置するといっている。たとえばテーベは *niwt (Imn)* であり、その西岸に位置する労働者の村には、一般的に「その町」を意味する *pꜣ dmi* が使われた (正式名は「真実の地」を意

表1 時代別による町村の区別
(資料: Shehab al-Din 2000/01: 178)

時代	村	町・都市
古王国時代	<i>niwt, s3</i>	<i>niwt</i>
中王国時代	<i>s3</i>	<i>niwt</i>
新王国時代	<i>wh3yt, s3</i>	<i>niwt, dmi</i>
末期王朝時代	<i>wh3yt, s3</i>	<i>b3k3t, niwt, k3ht, dmi</i>

味する *st m3rt*。というのも、テーベ都市域の一部地区とみなされていたからである (Černý 1973: 85)。

それ以外に都市・農村をあらわす単語として、E.A.W. バッジ (Budge) は、*b3k, k3dt, k3rti, tmi, k3fr* などをあげている (Budge 1920: 947-1065)。一般的に、村をあらわす語は、*wh3yt, s3, niwt, hwt* で、他に *spt, k3fr, k3trt* なども加えられるであろう。部落になると、*dt* や *s3* といわれた。*niwt* の反意語となるのは、*wh3yt* や *s3* であろう (Sāmiḥ Maqqār 2007: 247)。D. オコナー (O'Connor) は集落階層について、丘 (*i3t*)、家 (*rt*)、村 (*wh3yt*)、ピラ (*b3n*) としているが (O'Connor 1972: 693)、これにしても、明確な集落の階層区分ではない。

古代エジプトで「町・都市」と対比されるものは、「村」というよりもむしろ「沙漠」という過酷な自然の地であろう (‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 230)。都市は「黒い地＝定住地」、その反対の沙漠が「赤い地＝非定住地」といえる。「黒い地 (エジプト)」を意味する *kmt* の決定詞に、都市をあらわす (⊗) が使われていることからわかる。

居住空間を指す用語として、*niwt* と *dmi* と *wh3yt* があると言ったが、問題になるのは現代の学者がこれらの語をすぐに現代語に置き換えて結論を出してしまっていることである (吉成 1985: 182)。都市－農村という区分は本来工業－都市社会の特徴であり、前産業社会では一般的ではない (Stadelmann 2001: 14)。近世以前には、都市と農村とを区別する明確な基準がなく、またおそらくその必要もほとんどなかったのである。ちなみにクルアーンでも、アラビア語 (以下、アラビア語はエジプト方言も含む) で都市を意味する *madīna* と村 (*qarya*) が、同じ意味で使われている (‘Alī Fahamī Khshaim 2001: 258)。

古代エジプトの集落の語には *niwt* や *dmi*、*wh3yt* といった直接的に集落をあらわす語と、間接的に集落に使われる語の2つに分けられる。

2. 本来、集落を意味する語

n (i) wt

一般的に「町・都市」を意味する。*niwt* は「一緒に集まる」を意味する基本形 (*nwi*) から派生した語で (Billing 2003: 133)、人々の集合する地から集落に使われた。その

接尾辞 ⊗ は文字通り町、都市を真上からみた形をあらわしている。ただ第1王朝初期のテキストには *niwt* は集落として (Hassan 2001: 268)、また古王国時代には「村」としても使用されている (*Wb.* II. 210, 9; Shehab al-Din 2000/01: 176)。都邑の数が少なく、双方をそれほど区別する必要がなかったのであろう。*niwt* は農地や所領にも使われた。ギリシア語の *πολις*、コプト語の *B3KI*、アラビア語の *madīna* (مدينة) に相当する。コプト語の *N3*, *N2* の語源で、聖書にはノ (*nx*) とでてくる (Černý 1976: 347)。*niwt* はエジプトの都を象徴する語でもあった。*niwt* には、ユートピア (来世の世界) のイメージもあったのであろう。接尾辞を (⊖) に変えると、「下部の天国」という意味になる (Faulkner 1964: 125)。『コフィン・テキスト』呪文 466-7 には、来世での都市、平和の象徴としての都市が描かれている。また *niwt* は「永遠の家」、「玉座」という意味も含む。「*niwt nt nh3* (永遠の町＝墓)」や「*niwty* (都市の) 守護神」となると、神の玉座の地、墓であった (‘Ādil al-Said ‘Abd al-‘Azīz 2009: 403)。

dmi

「接する」を意味する *dmi* も、船着場のある河岸と関連する町や居住地をあらわしていた。砦にも使われたが、ほかの語を使う砦に比べれば、*dmi* は相対的に人口が多かった (al-Ayedi 2006: 132)。「ホルスの町 (*dmi n Hr*)」、「イチュ・タウィの町 (*dmi n it t3wi*)」といった表現がみられることから、*niwt* とほぼ同義で使用されていたことがわかる。集落の規模に関係なく、*niwt* は自然発生的な都市、*dmi* は計画的な都市を意味しているともいわれるが (Uphill 1988: 6)、双方の区別は明確ではない。「ホルスの道」にある12の集落のうち3つには、*dmi* の語が使われている。そのうち2つは、国王によって造られた新しい町 (*dmi k3d n hm.f m3wt*) であった (al-Ayedi 2006: 143)。*dmi* は第5王朝より町、大きな村として (Hassan 2001: 268)、また新王国時代以降、エジプト以外でも町をあらわす語として使用された (Shehab al-Din 2000/01: 175)。

都市化の観点から見れば、*dmi* は村と都市の中間の位置を占めるのであろう。*dmi* は現在の小さな中心地を意味する *markaz* (مركز)、*bandar* (بندر) に近い。*dmi* はデモティックで *tmi* と転化するが、その意味は都市というよりも生誕の地であった (Shehab al-Din 2000/01: 176-177)。コプト語でも *ⲧⲙⲓ*、*Δⲙⲓ* は「農村・部落」の意味で、農村的要素が強くなる (Sobhy 1950: 16; Mu‘awaḍ Dāwūd 2000: 838)。

アラビア語では基本形 *dāma* (دام) で、その派生形 *dmī* (دمي)、*nmī* (نمي)、*tmī* (تمي) は (Amélineau 1893: 501; ‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 254)、「居住地」・「集落」と

関連する (‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 2, 599)。現在でもエジプトではこの *tmi* (*dmi*) に由来する町が少なくない (例: Ṭmā (طما)、Ṭimāī (طماي)、Dīma (ديمة))。上 13 ノ・下 3 ノ (以下、上○ノは上エジプト第○ノモス、下○ノは下エジプト第○ノモス、ファはファイヨームをあらわす) Damanhūr (*dmi n Hr*) や、下 15 ノ Dimiyāt (*dmi tyw*)、下 6 ノ Damāt (*dmit n pth tnn*)、上 15 ノ Al-Shaikh Ṭimāī (*dmṣi*)。

wḥ(y)t

wḥyt は「村」を意味する。王朝初期には決定詞として  又は  が使われていたが、第 18 王朝以降、 に取って代わる。これは *wḥyt* の立地場所が、沙漠縁辺部から氾濫原の農地周辺の土地に移動したと見ることもできる。*wḥyt* の接辞詞を  に変えると、「家族」を意味することから (Gardiner 1947: 2, 205; Faulkner 1964: 66)、*wḥyt* は、家族単位を中心とした血縁集団の地であったといえる。

コプト語の **ⲧⲙⲓ**、**ⲁⲙⲓ**、アラビア語の qarya (قرية) に相当する。「村の地」を意味する *tṣ wḥt* はコプト語で **ⲧⲟⲩⲧⲟ**、アラビア語で Ṭaḥā (طحا) と転化した (Meeks 1977-79: 1, 77; Sāmiḥ Maqqār 2006: 133)。Ṭaḥā のついた地名は、エジプト各地に 6 つの集落がみられるが (Muḥammad Ramzī 1953-4: Fihriṣ, 278)、それらの語源と考えられる (Gardiner 1947: 2, 205; Černý 1976: 355)。例: 上 16 ノ Ṭaḥā al-A'mida (*tṣ wḥyt*)、Ṭaḥnashā (*tṣ wḥyt n wdī*)、上 17 ノ Al-Qīs (*tṣ wḥyt sṣ kṣ*)、下 1 ノ *tṣ wḥy bit* など。

kṣfr

kṣfr はもともとアッシリア語源とされ、アラビア語の kafr (كفر) に相当する (Budge 1920: 787)。Kafr al-Shaikh のように、現在多くのエジプトの都邑はこの語を使っているが (1941 年には全集落 (4,174) のうち 575 の集落) (Maṣlaḥa al-Masāḥa 1941: 63-80)、ただこの語はアラブ時代以前ほとんど使われることはなかった。

ḏṣtt

「部落・不動産」を意味する。

前述のように、バッジは *kṣtrt* や *kṣirti* などの語も都市をあらわす語としたが、これらは外来語なのであろう (Sāmiḥ Maqqār 2006: 116)。

3. 間接的に集落をあらわす語

直接的に集落を意味する語ではないが、特定の目的をもって都市集落をあらわす語で、多くの場合、地域の特性

をあらわす複数の語があつまって集落地名をあらわしていた。

A. 自然的特性による地名

古代エジプトの地名は、地域の自然的な特徴によって命名されることが少なくない。それはほかの地域とあきらかに区別できる集落名の視覚的表現ともいえる。それらを区分してみると、以下の表ようになる。丘や山、沙漠・川・崖といった自然地形、月や太陽・星などの天体、東西南北といった地理的位置、土地利用などによる農耕地、地域の産物・動植物などである。

1) 自然地形 (丘や微高地、島など) に関する集落地名

エジプトに点々と立地する氾濫原上の微高地や防御にすぐれた島は、古来、集落の立地には最適な場所であった。このため、丘や島=集落ともみなされた。また、キャラバン・ルートの起点となる谷口は、交易・集落立地に最適であった。古代エジプトでは自然地形に関係した地名が多くみられる。

丘

ist

「丘」を意味する語で、コプト語の **ⲧⲁⲗ**、**ⲭⲟⲙ**、アラビア語の tall (تل) や kūm (كوم) に相当する。*ist* は集落であり、その複数形 *iswt* は都邑 (都市化された地)、エジプトともいえる (Wb. I. 26, 13)。『コフィン・テキスト』呪文 1130 には「丘は町になり、町は丘になる。邸宅を壊し、邸宅を造る (Faulkner 1973: 3, 168; Parkinson 1991: 33)」とある。丘は自然形成のものと人造のものがあった。前者の多くが自然地形であるのに対し、平野に分散している丘は、水害に苦しめられた人々が長い年月をかけて集落を盛土したのである。このため、「丘を破壊する者は悪である。町はそれを愛する者によって築かれたのであるから (Parkinson 1991: 71)」といわれる。*ist* の双数形 *isty* は、並列して存在する 2 つの丘からなる双子集落を意味するのであろう。例: 上 1 ノ Bija (*ist wrb*)、下 2 ノ Ṣaft al-Laban (*isty Spdw*)、*pr Spdw m isty*。

kṣy, *kṣṣ*

「丘・高所」を意味する。農地の意味もあり、コプト語では「耕地」を意味する **ⲕⲁⲓⲉ**、**ⲕⲟⲓ** に相当する (Sāmiḥ Maqqār 2007: 263)。qal'a (قلعة) (砦)、および ghaiṭ (غيط) (農地) などの語源ともされる (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 111)。耕作には不適で、灌漑水が必要であった。例: 上 10 ノ Qāu al-Kubrā (*ḏw kṣ*)、上 6 ノ Dandara (*ḥwt kṣ*)、下 1 ノ *kṣ nfr*。

m3wt

土地利用の面からみると、*m3wt* は「高い土地・盛土地」を意味する *tni* とほぼ同義で、現在デルタに点在する「島」を意味する *jazīra* (جزيرة) のような地形であったと思われる。*m3wt* は「新しい(土地)」を意味し、新しい町 (*niwt m3wt*) といった表現がある。コプト語での **MOYE**、**MOYI** である。*iw n m3wt* というと、「氾濫の上にある島」である。例：上 15 ノ *Idmū (t3 m3wt)*、下 16 ノ *Tall al-Rab' (t3 m3wt)*、*i3t m3wt*。

窪地・洞窟

kr(r)t

古代エジプト語で「安定する」を意味する *kr* から派生した語で、アラビア語で「村」を意味する *qarya* (قرية) (原形は「穴を掘る」を意味する *qarra* (قَرَّ) の語源ともされる (Atallah 2000/01: 116) (カルヤの語源はカナン語で「定着する」を意味する *kr̥t* とする説もある ('Alī Fahamī Khshaim 2001: 62; Yaḥyā 'Abābina 2003: 446))。歴史時代以前のエジプト人は洞窟のあるような山に住んでおり、ヒエログリフの文字 (𓆎) は丘というよりも、山に近いと思われる (Nadīm al-Sattār 2003: 478)。*kr(r)t* は「山」を意味する説もある (Nadīm al-Sattār 2003: 489)。例：上 1 ノ *Bija (kr̥ty)*、上 11 ノ *Dair Drunka (r kr̥rt)*。

土手

idb

idb は集落であり、「耕作地」も意味する。その双数形の *idbwy* または *idbwy Hr* は、都邑の地 = エジプトでもあった (Wb. I. 153, 3, 7)。アラビア語の *ḍiffa* (ضفة) に相当する。例：上 13 ノ *n3i nt idb*、*idbw ggws*、上 1 ノ *t3 idb*。

山

dw

dw はアラビア語の *jabal* (جبل) に相当する。例：上 1 ノ *Bija (dw k3)*、上 8 ノ *dw Hr*、下 16 ノ *al-Manzala (pr dwf)*、下 13 ノ *al-Jabal al-Aḥmar (dw d3r)*、ヌビア *Nabātā (dw nfr)*。

w3rt

w3rt は沙漠の山、または足を意味する。例：上 8 ノ *w3rt 33t nmhmt* 上 8 ノ *w3rt m k33t t3 m 3bdw*、下 19 ノ *Tall al-Ḍaba' (hwt w3rt)*、下 13 ノ *w3rt*。

沙漠

smyt

墓場も意味する。上 13 ノ *smyt nt s3wt*。

島

iw

島はまわりの地域との交流は不便ではあるが、防御や河を利用した交易など地理的に有利で、このため、歴史時代初期、とくに国境付近の集落の多くは島に立地していた。またデルタでは氾濫季になると、ほとんどの農耕地が水没し、微高地に位置する集落だけが、島のように水没を免れていた。コプト語の **MOYI**、アラビア語の *jazīra* (جزيرة) に相当する。上 1 ノ *Jazīra Fīla (iw rk)* や、上 4 ノ *al-Dimqrāt (iw swt)*、下 5 ノ *Binūfar (iw nf rw)*、下 17 ノ *al-Balāmūn (p3 iw n imn)*、上 5 ノ *al-Shaikh Banāt Birrī (iw sn3n)* など、多くの古代エジプトの集落名に「島」を意味する *iw* がついている。現在でも *jazīra* の名のついた地名は多い (1941 年には 37 の集落) (*Maṣlaḥa al-Masāḥa* 1941: 41)。

段丘

hty

例：上 6 ノ *hty mnw*、下 16 ノ *pr hty*、シナイ *pr Hr htyw mfk33t*。

谷・ワーディー

int

例：上 3 ノ *al-Kāb (r int)*、上 4 ノ *t3 int 33t*、上 16 ノ *nazla al-Shrafā' (r int)*。

2) 土地利用・地域に関する集落地名

後背湿地に広がる農地は、土壌の種類、灌漑の度合いなどによって地名が区別されていた。

土地・耕地

t3

t3 はセム系の語根 (*tl*) に関連するのであろう (Hock 1997: 25)。また *t3* (𓆎) はもともとパンを表わす象形文字であらわされ、「穀物生産の地」というイメージも象徴していると考えられる (Ramaḍān 'Abduh 'Alī 2002: 1, 100, 152)。コプト語で *t3* に相当する語は **TO** で、ヌビア語で *te* である (Muḥammad Mutawallī Badr 1955: 101)。*t3* (または *p3 t3*、*t3 pn*) はエジプト自体をあらわす語でもあり、*t3* = 町 = 国とみられていた (Meeks 1977-79: 1, 410; 3, 318)。アラビア語では「国・家・沙漠」などを意味する *ṭiyā* (طيا) であろう (Ibn Manẓūr d.1311: 18-20; 'Alī Fahamī Khshaim 1997: 2, 463)。クルアーンでも「その土地」を意味する *al-ard* (الأرض) をエジプトの町、国に使っている (El-Daly 2005: 23)。例：下 3 ノ *Kūm Abū Billū (t3 Rnnwtt)*。

ꜣḥt

農村を含めた農地をあらわす。コプト語の ⲓⲁⲚ に相当する。例：下 14 ノ *r ꜣḥt*、ファ *ꜣḥt mr*。

krḥt

dmi とともに使用されることが多い。コプト語の ⲕⲁⲛ に相当する (Sāmiḥ Maqqār 2007: 263)。土地 = 集落の意味合いが強い。

bꜣkꜣt, bꜣk

「土地」を意味するだけでなく、末期王朝時代以降決定詞 ⲙ とともに、都市・エジプトを表す語としても用いられた (Wb. I. 425, 18; Ramaḍān al-Sayyid 1988: 1, 133)。「光り輝くホルスの眼」、「オリーブの地」といった意味もある (Gauthier 1925-31: 2, 6; Wb. I. 425, 18; Meeks 1977-79: 2, 20; Ramaḍān al-Sayyid 1988: 1, 133; Shehab al-Din 2000/01: 1, 173; Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 154)。コプト語では「都市・町」を意味する ⲃⲁⲕⲓ、アラビア語では faq (فاق) である (‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 2, 758)。

sdt

土地、とくに土地区画をあらわす。池や井戸・島を意味することもある。例：ファ *Madīna al-Faiyūm (sdt)*、上 15 ノ *Ibshādāt (sdt)*。

湿地・耕地

šḥt

文字 (𓂏𓂏) で象徴される。*šḥt* は同じく「農地」を意味する *ꜣḥt* と比較すると、農地でも収穫する農作物や家畜、そこで働く農民のいる土地で (Mamdūḥ Muḥammad Al-Damāṭī 2002: 71)、まわりの農地を含めた集落にも使われた (Faulkner 1964: 239)。コプト語の ⲥⲱϣⲉ、アラビア語の khīt (خيت)、Sakhwā’ (سخواء) に相当する (Youssef 1999: 88)。例：ワーディー・ナトローンの Σχναθις (*šḥt hmꜣt*) (場所不明のため、アラビア語表記不可能。以下ギリシア語表記地名も同様)、下 18 ノ *al-Khīs (šḥt)*、上 3 ノ *īꜣt šḥt nṯr*、下 14 ノ *šḥt ḏr*。

šꜣ

「肥沃で灌漑のある土地・湖沼・湿地帯」を意味する語。古王国時代以降、農地を意味する *šḥt* と同義であった (Shehab al-Din 2000/01: 176-177)。農村として使われる場合、*wḥyt* より小さな集落と考えられる (Shehab al-Din 2000/01: 177-178)。耕地 = 村でもあったのであろう。コプト語の ⲩⲱⲏ、アラビア語の rif (ريف) に相当する。上 11 ノ *Shṯb (šꜣ ḥtp)*、上 5 ノ *Shanhūr (š n Ḥr)*、ファ *al-*

Faiyūm (tꜣ šꜣ)、下 9 ノ *šꜣ tpnt* などの町にみられる。

phw

šḥt や *šꜣ* と同義であった。例：下 2 ノ *Baharms (phw rms)*、上 9 ノ *Sūhāj (phw)*、上 14 ノ *al-Qūṣīya (ꜣtf-phḥt)*。

brḥ

「氾濫」を意味する。土地分類の観点からみると、*brḥ* は冠水する土地とみることができる。第 18 王朝後半、水路に沿って線状につづく微高地の農園であった。オアシス地域では、井戸や泉から水が供給される灌漑の土地で、ブドウや果樹・オリーブなどの農園に使われた。ナイル河谷地域でも果樹栽培の土地をあらわしている (Eyre 1994: 70)。例：下 15 ノ *al-Bahū*、または *Tall al-Baqlīya (brḥ)*、*brḥ issi*。

idḥw

「(デルタの) 湿地帯」を意味する。例：上 18 ノ *Uṯū al-Waqf? (iy idḥw)*、上 19 ノ *idḥ*、下 13 ノ *Tall al-Yahūdīya (nꜣ idḥw)*。

果樹園

ḥsp

コプト語の ⲁⲥⲃⲁⲕⲓ、アラビア語では「部落」を意味する ‘izba (عزبة) と転化した (Sāmiḥ Maqqār 2006: 119)。また *ḥsp* は「市場」も意味する (Aly 2009: 95)。例：上 2 ノ *Idfū (ḥsp ḥꜣt n Ḥr)*。現在のカイロの中心地区である *al-Izbikiya (الإزبكية)* も、この語に由来すると考えられる。

地域

spꜣt

ノモスを意味する語でもある。例：上 4 ノ *spꜣt mst*、ファ *spꜣt ḥwt mꜣdt*。

w

例：アビドスの聖域 (*w pkr*)、上 9 ノ *Akhmīm (w n mnw)*、下 13 ノ *ww*。

場所

bw

例：下 4 ノ *Minūf (bw nfr)*、下 9 ノ *Abū Šīr Bannā (bw Wsir)*。

(i)st

場所、いわゆる「神の玉座」を意味する語で、𓂏𓂏 の象形文字で象徴される。*ist* は裁決の場・倉庫・宝物殿・牢

獄などを示している。また *(i)st* には各職業の職場 (*ist*) (行政の省庁を示す古代エジプト語) という意味があり、役職とも関連している。コプト語の **ci** に相当する。*(i)st* を使った集落名は数多くみられる。例：上3ノ al-Tur'a (*t3 st n Rr*)、上20ノ Dallāṣ (*t3 ist pt*)、上1ノ *st Hpy*、下17ノ *st nṯr*。

wṯs

場所、いわゆる「神の玉座」を意味する。例：上2ノ Idfū (*wṯs Hr*)。

3) 水場や港・運河に関する集落地名

河や運河沿いの集落地名が少なくない。またキャラバン・ルート上に栄えた水場(湧水・井戸・貯水)の地名もよくみられる。それに対し、海岸や河口、岬など海に関連した地名はほとんどみられない。水のある場、それは神の宿る場ともいえる。

井戸

ḥnmt

ḥnmt は水場の地で、新王国時代以降、リビアやアジアへのルートには水場(井戸・水槽)が点在した。このような中継地点では、通常小さな部落になっていた。「ホルスの道」にはこの語を使った集落が少なくない (al-Ayedi 2006: 132)。例：シナイの bīr al-'Abd (*t3 ḥnmt sti mri-n- Pth*)、*t3 ḥnmt mn m3ct*。

b3r

b3r は、アラビア語の bīr (بر) の語源とされる。例：下13ノ Bilbīs (*b3r ist*)。

泉

ryn(n)

「泉」を意味する *ryn* は、アラビア語で「泉」を意味する 'ain (عين) の語源ともされる (Gardiner 1947: 2, 128-129; al-Ayedi 2006: 101)。例：シナイの al-'Arīsh (*ryn*)、上1ノ *ryn*、*ḥ3st ryn*。

池

ḥnt

例：上15ノ Tūna al-Jabal (*t3 ḥnt*)、上20ノ Al-Lāhūn (*r ḥnt*)。

b3rkt

アラビア語で「池」を意味する birka (بركة) の語源ともされる (Wb. I. 44)。例：上7ノ Farshūt (*b3rkt*)。

川

itrw

itrw は川、とくにナイル河をあらわす。コプト語の **iaPO**、アラビア語の tur'a (ترعة) の語源とされる (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 126-127)。例：上4ノ al-Maḥāmīd Qibliya (*im n itrw*)。

海

ym

ym はコプト語の **eiOM**、アラビア語で「海」を意味する yamm (يم) の語源とされる (Sobhy 1950: 9; Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 2, 147)。ナイルの別称でもある。ヒクソスの侵入によってもたらされたセム系の外来語といわれている。例：ファ al-Faiyūm (*p3 ym*)、下9ノ *p3 ym n wsr ḥpy*。

港・岸

mr(yt)

岸辺は物資の集積地で、市がたつ地であったため、*mryt* は市場も意味する (Aly 2009: 95)。コプト語では **MPQW**、アラビア語では mīr (مير) と転化した。水のある地(灌漑地)の意味もある。例：下3ノ Mārīyā (*mryt*)、上19ノ Al-Bahnasā (*mrit*)、ファ Jurūb (*mr wr*)。

mr には「愛しい」の意味もある。例：上8ノの Jirjā (*pr Rmssw mri Imn*)。「エジプト」を意味する *t3 mri* も「氾濫の地」、または「愛しき地」と訳することができる。「氾濫の地」を意味する **TEMEPE**、dimīra (دميرة)、およびその地名もそれに由来すると考えられる (Amélineau 1893: 118; Sobhy 1950: 9; Muḥammad Ramzī 1953/54: 2-2, 86-90; Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 136)。

また *mrw*, *mrt* には沙漠という意味もある。集落名に使われる場合、沙漠というよりも耕地に隣接した砂地を意味する (Kaper 1992: 123)。アラビア語の marīr (مرير) に相当する ('Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 251)。例：上19ノ al-Qāiyāt (*spr mrw*)、上3ノ Kūmīr (*pr mrw*)。現在 dimrū (دمرو) の地名は多くあるが(たとえば Dimrū Khamāra, Dimrū Sālmān)、それらの語源でもある (Amélineau 1893: 118; Sobhy 1950: 9)。

mnit

mnit は、コプト語の **MOMMONI**、アラビア語の mīnā' (ميناء) の語源ともいわれる (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 2, 229-230)。例：上16ノ Al-Minyā (*mnit*)、上8ノ Aulād Jubāra (*t3 mnit n Imn*)、下14ノ *s3 mnit*。

堰

dni(t)

dni(t) は「堰・ダム・橋」を意味する (El Aguizy 2008: 1, 75)。*t3 dnit* は運河を意味する語でもある。シナイには Tīna という集落があるが、これは **TENE**, *dnit* が転化したものであろう (Sobhy 1950: 13)。

冷水

kbhw

kbhw はカタラクトも意味し、冷水の神でもある。コプト語の **KB2Ω** である (Atallah 2000/01: 116)。第1急湍のある上1ノに多くみられる。例：上1ノ *s kbkw*、上1ノ *sn kbhw*、上13ノ *kbh snfrw*、下13ノ *s kbhw*、下13ノ *sn kbhw*。

4) 交通に関する集落地名

道

h3r

h3r は「道・部落」を意味する。コプト語の **HP**、アラビア語で Shbrā (شبرا) と転化した (‘Abd al-Ḥalīm Nūr al-Dīn 2000: 316)。下7ノ Shbrā Khīt (*h3r mhit*) の町にはこの名がつけられている。

mtn, mit

mtn, mit はどちらも「道」を意味する。*mit* は *mtn* から転化したものと考えられる。コプト語では **MCWT**、アラビア語では mannīya (منية)、mīt (ميت) となった (Maspero and Wiet 1919: 204-209; Sobhy 1950: 16)。下1ノ Mīt Rahīna (*mit rhnt*)、上16ノ (*mtn snfrw*) をはじめ、多くのデルタ地域の地名に *mīt* の語がみられる (1941年には155の集落に *mīt* が、また31の集落に *mannīya* がつけられている) (Maṣlaḥa al-Masāḥa 1941: 89-93)。

w3t

例：下19ノ ‘Izbat Rushdī al-Ṣaghīra 近隣 (*r3 w3ti*)、下14ノ Hābua I (*p3 hhm n w3t Hr*)。

サークル

sn

例：上1ノ *sn wr*、下3ノ *sn rhyt*、下13ノ *sn kbhw*。

結びつき

sm3

上下エジプトの統一を象徴する。例：上8ノ Samhūd (*sm3 bhdt*)、上4ノ ? *r sm3.f*、下17ノ *sm3 bhdt*、*sm3 nww*。

inḳ

ヌビア *inḳ t3wi*。

ḳni

「抱くもの (ナイルがこの地で大きく蛇行していることから)」を意味する。例：上6ノ Qīnā (*ḳni*)。

通過

sni

例：上3ノ Isnā (*t3 sni*)。

hns

例：*hns*。

漕ぐ地

hny

流れが急で漕ぐ必要があるような場所。例：Jabal al-Silsila (*hny*) などがある。

5) 地理的位置に関する集落地名

エジプト国内に同じ地名がある場合、東西南北といった方位で区別されていた。上下エジプト、ナイル河兩岸という二元的な地理環境から東西南北を使った集落名は、数多くみられる。

東

i3bt

i3bt はコプト語で **EIEBT** である。例：下20ノ Ṣaṭṭ al-Ḥinna (*pr i3bt*)、下14ノ Trūja (*hwt i3bt mnst*)、下14ノ Tall Abū Ṣaifa (*hnty i3bt*)、上3ノ *pr Hr i3btt*。

西

imnt

imnt は「死」も意味する。コプト語で **AMENTE**、アラビア語で amnūt (أمنوت) である (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 3, 38)。*imnt* の語は、現在でも Shbrā Mint (西の Shbrā の意味) などの地名に残っている。例：下7ノ Al-‘Aṭf (*pr h3 nb imnt*)、上4ノ al-Qurna (*imnt nt w3st*)、上3ノ Aṣfūn al-Maṭā‘īna (*imnti Hr*)。

北

mhit

mhit はコプト語で **2HT**, **hHT**、アラビア語で khīt (خيت) である。例：下15ノ Dimiyāṭ (*t3 mhit*)、上8ノ Naja‘ al-Mashāikha (*pr mhit wbn*)、上20ノ Abū Ṣīr al-Malaq (*3bdw mhit*)、下6ノ Tīda (*wnw mhit*)、下7ノ Shbrā Khīt (*h3r mhit*)。

南

rs

rs はコプト語で **PHC**、アラビア語で *rīs* (ريس)、または *mārīs* (ماريس) である (Sobhy 1950: 12)。*rs* の語は現在でも Shbrā Rīs (南の Shbrā の意味) などの地名に残っている。
例：上 4 ノ al-Uqṣr (*nīwt rsyt*)、上 3 ノ *iwnyt rsyt*。

šmʿ

例：ファ *š šmʿ*。

上

ḥr

例：下 1 ノ Hīlwān (*ḥr iwnw*)、(*ḥwt ḥrt*)、下 1 ノ *ḥry p dmi*。また *ḥry ib* は中央を意味する語であり、その例として下 10 ノ Tall Atrīb (*ḥwt ḥry ib*)、下 17 ノ Busāt (*ḥnt nfr ḥry ib*)、*ḥwt tṣ ḥry ib* などがあげられる。

下

ḥrw

低い土地をあらわす。例：下 7 ノ *ḥrww*。

角

ḵnbt

例：ファ *ḵnb*、ファ *ḵnb š*。

ここ

di

例：*ḥr di*、上 17 ノ *ḥr dw*。

後ろ

sṣ

例：上 17 ノ *sṣkṣ*。

6) 天体・暦に関する集落地名

地平線

ṣḥt

例：上 14 ノ Tall al-ʿAmarna (*ṣḥt itn*)、下 1 ノ Minf (*ṣḥt tṣwi*)、上 8 ノ *ṣḥt imntt nt tṣ wr ṣbdw*。

太陽

rr

ラー神ともいえる。コプト語で **PH**、例：下 13 ノ ʿAin Shams (*pr Rr*)、上 11 ノ Misrā (*ms Rr*)。

月

irḥ

irḥ は神でもある。コプト語で **IO2**、例：上 4 ノ *nīwt irḥ*、ダークラ・オアシスの Ismant (*ist irḥ*)、上 9 ノ *ḥwt irḥ*。

星

sbṣ

sbṣ には「学ぶ」という意味もある。コプト語で **CIOY**。例：*pr sbṣ ntṛ*、上 18 ノ ? *sbṣt*。

天

pt

例：下 13 ノ ʿAin Shams (*pt n kmt*)。

夜

grḥ

例：*mr grḥ*。

wh

例：上 9 ノ *ḏr whṣ*。

rwhw

夕方の意味。例：上 9 ノ *ḏr rwhṣ*。

年

rnpt

例：上 20 ノ *bḥn n nfr rnpt*。

風

ḏr

例：上 9 ノ *ḏr rwhṣ*。

B. 人文的特性による地名

人文的特性をあらわす地名は、自然的特性のものより圧倒的に多い。とくに神殿名のものが多く、神々への信仰を重ねる古代エジプト人の特徴がみられる。住民の特性や階層・職業などで命名できるため、容易であったともいえる。人文的特性をあらわす地名には、灌漑・開墾・運輸・交通・商工業・社会関係・支配層・尊称・親族関係・部族・民族・家屋・防御・宗教・民族の特性・大きさや色・体の一部・職種・音楽などがみられる。国境や戦略的拠点では、政治的・軍事的な要素も大きく影響する。歴史的な持続性の中で、まわりとは異なった場所をあらわす特性が、地名につけられた。

1) 建物（家屋・神殿など）に関する集落地名

家・邸

pr

pr も集落名にはよく使われる語で、𓂏𓂣の文字で象徴される。それ自体では都市という意味はみられないが、神の名などが添えられ、守護神の居処としての神殿・聖域が転じて、集落を意味するようになった。コプト語では *περ*、または *HI* で、アラビア語では「建物・高さ」を意味する *barr* (بر) に相当する (Sobhy 1950: 11; 'Alī Fahamī Khshaim 1998: 2, 762)。

古代エジプトの都市は神殿を中心に発展し、神殿名＝都市名であったため、(*pr*＋神) を使った都市名は数多くみられる。神殿 (*pꜣ r pr*) の語はコプト語で *pne + π*、アラビア語で *al-Birbā* (بربا) と転化した (Sobhy 1950: 16)。例：上 8 ノ *al-Birbā* (*pr bꜣ, pꜣ r pr*)。

hwt

𓏏𓏏𓏏の象形文字で象徴される。家の集まるところが、農村・都市である。古王国時代には王室権力の中心地として、*hwt* は神殿領にも使われた。*niwt* と *hwt* の違いははっきりしていないが、前者は所領地や大農地のように、大組織で集約化されており、後者は小さな小作農形態で、村落に近かったのであろう (Eyre 1987: 34)。*hwt ntr* といわれた神殿とも関連する語である。*hwt*＋神の地名は多くみられる。

神殿は通常の家 (*pr*) よりも規模が大きく、地域の支配者の場である王室とも関係するからである。A.H. ガーディナー (Gardiner) は、「周壁のある村」と訳している (Gardiner 1957: 580)。コプト語の *ⲡⲟⲩ*、*ⲡⲟ*、アラビア語の *Hiū* (هو) に相当する (Maspero and Wiet 1919: 218-219; Sobhy 1950: 17)。例：上 7 ノ *Hiū* (*hwt shm*)、上 15 ノ *Hūr* (*hwt wr*) (Černý 1976: 357)。

室

rt

小さな集落・砦などに使われた (al-Ayedi 2006: 82)。コプト語の *HI* に相当する (Gardiner 1947: 2, 206-207)。例：下 14 ノ *Hābua I* (*tꜣ rt pꜣ mꜣt*)、上 1 ノ *rt rꜣt*。

住居

hnw

休息の地。例：上 20 ノ *Bush* (*tnꜣ hnw*)、*hnm nhn*、下 11 ノ *ist hnw*、下 9 ノ *hnm n mꜣrt*。

王宮

rh

例：ファ *rh tꜣ s*。

hnw

hnw は内部・王宮、また広義ではエジプトも意味する (Salīm Ḥasan 1947: 3)。コプト語で *ⲭⲟⲩ*、アラビア語で *khūkha* (خوخة) である。王宮都市などに使われた。

礎・建立

grg

ある特別な目的で造られた集落。第 3 王朝以降、農民の住む *niwt* や *dmi* よりも小さな集落に対して用いられた。コプト語の *CENTE*、アラビア語の *asās* (أساس) に相当する。アラム語では *krak* で、「町」を意味する ('Alī Fahamī Khshaim 1998: 2, 814)。例：上 8 ノ *Jirjā* (*grg Rꜣmssw mry Imn*)、*grgt wsir*、上 16 ノ *Abū Qurqāš* (*grg*)、上 17 ノ *Abū Jirj* (*pꜣ grgyt*)、上 15 ノ *Sinjirj* (*st n grg*)、上 21 ノ *Al-Jirza* (*grgt*)、下 2 ノ *Warrāq* (*grg*)。

snd, snṯ

前述の *grg* の類義語である。基本形は「開く」を意味する (*sn*) と思われる ('Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 261)。コプト語の *CENTE*、アラビア語の *sanad* (سند) の語源とされる (Sobhy 1950: 16)。例：下 10 ノ *Sindahūr* (*snṯ hr*)、ファ *Rꜣ snṯi*、*snṯ nfr*。

(s) mn

例：上 21 ノ *Al-Riqqa?* (*smnw hr*)、上 20 ノ *Bush* (*smn hr*)、上 4 ノ *al-Rizīqāt* (*smn*)、ファ *Sanhūr* (*smn hr*)、上 1 ノ *Minf* (*mn nfr*)。

聖域・聖殿

ipt

ipt は、別邸のある所・集落にも使われた。例：上 4 ノ *al-Uqšr* (*tꜣ ipt*)、上 4 ノ *al-Karnak* (*ipt swt*) が使われた。

dbꜣ

「聖殿」を意味する (Montet 1960: 2, 31)。*dbꜣ* は財を意味するともいわれる。例：上 2 ノ *Idfū* (*dbꜣ*)、下 3 ノ *dbꜣ mh*。

hm

hm には「至聖所」の意味もある (Gardiner 1947: 2, 217)。例：下 2 ノ *Ausīm* (*hm*) や上 7 ノ *Hiū* (*hwt shm*)、下 18 ノ *hm stꜣ n wsr*。

itrt

「聖廟」を意味する。例：上 3 ノ *al-Kāb* (*itrt smꜣwt*)

柱

iwn

「柱」を意味する語で、柱廊のある王宮や神殿のある町をあらわしていた。「かれの母の柱 (*iwn n mwt·f*)」とあるように、ホルスを象徴する語でもある。*iwn* はアラビア語では「柱廊・宮」を意味する *īwān* (أيوان) となり (Youssef 1999: 85; Sāmiḥ Maqqār 2005: 169)、*‘amd* (柱) = *bunyān* (建物) = *madīna* (町) となる (‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 250)。上 6 ノ *Dandara* (*tṣ iwn t nṯrt*) や下 13 ノ ‘Ain Shams (*iwnw*)、上 3 ノ *Isnā* (*iwn ty*) などの主要都市名に使われている。上 4 ノ *al-Uqṣr* も「南の *iwn* (*iwn rsyt*, または *iwn smꜣw*)」と呼ばれた。

階段

rdw

例：上 17 ノ *Bardanūha* (*pṣ rd nḥḥ*)。

入口

sbḥt

例：上 3 ノ *ḥwt sbḥt*。

穀倉

snwt

「囲む」を意味する基本形 *sn* から派生し、コプト語の **Ⲛⲉⲩⲛⲓ**、アラビア語の *shūna* (شونة) の語源とされる (Gardiner 1947: 2, 209, 214; Sobhy, 1950: 14; Khālid Aḥmad Ḥamza 2007: 57, 247)。穀倉は都市を象徴するものであり、広義では穀倉 = エジプトであったともいえる。中世でも「エジプトは大地の穀倉 (خزائن الأرض)」といわれた (al-Kindī d.9C.: 44; Ibn Zāhira d.1486: 77 など多数)。国境上の砦集落などでは兵士などへの食糧供給源として重要であった (al-Ayedi 2006: 144)。上 17 ノ *Banī Mazār* (*snwt*) や *Shlqām* (*snwt n ḥmꜣw*)、上 10 ノ *Abū Tīj* (*pṣ snꜣ*) などの町にみられる。また現在でも *shūna* (*shūnī*, *al-shūna*, *al-shūn*) など穀倉に関連した地名は、エジプト各地に数多くみられる。

遺跡

mnw

例：上 4 ノ *mn mnw*。

ベンベン石

bnbn

例：下 13 ノ ‘Ain Shams (*ḥwt bnbn*)、ファ *srt bnbn*、*ꜣr bnbn*。

回廊

sh

例：*r sh*、*r shwy*。

礼拝所

sspt

例：ファ *sspt*。

2) 軍・防御に関する集落地名

(**𓂏𓂐**) の象形文字で象徴される城壁は都市を象徴するもので、城壁 = 都市ともみなされた。古代エジプト語で「砦」をあらわす語はとて多い (*inbt*, *wnt*, *mnnw*, *nḥtw*, *hnrt*, *ḥtm*, *swnw*, *sdr*, *tṣrt*) (Wb. VI. 51; Aḥmad Amīn Salīm 1992: 228-288; al-Ayedi 2006: 142)。こういった砦をあらわす語自体が、都市、つまり郭内で住民が暮らす都市を意味している。人間は生活の利便さと、敵の攻撃に対して住民の安全を守るために、都市を創造したといってもいい。古代エジプトでも砦集落は数多くみられた。

砦

bḥn

国家的な神殿の塔門や城壁をあらわす語であるが、砦集落、農村集落に対しても使われた (Gardiner 1947: 2, 204-206; Crum 1990: 344)。例：下 11 ノ *Tūkh al-Qarāmuṣ* (*bḥn*)、上 18 ノ *al-Fashn* (*pṣ bḥn*)、ホルスの道第 5 駐屯地 (*bḥn n mn mꜣꜣt Rꜣ*)。

inbw

「壁・砦」を意味する語で、都市に近いだけの規模をもつ。例：下 1 ノ *Minf* (*inbw ḥꜣ*)、下 8 ノ *Tall al-Maskhūṭa* (*inbw*)、*inbw ḥꜣ* (al-Ayedi, A.R. によれば、下 14 ノ *Tall Abū Ṣaifa* (al-Ayedi 2006: 9)、F. ゴマア (Gomaà) は下 8 ノ *Tall al-Rutaba* 付近としている (Gomaà 1987: 129-130))。

sgr

砦や監視に対して使われた語で、砦や国境集落に使われた。上 20 ノ *Dashtūt* (*sgr n ḥwt tyt*)、下 8 ノ *sgr n ṯkw* などの町名に使われた。

sbty

砦や監視塔のある国境や辺境の都市に対して使われた。コプト語の **Ⲛⲁⲃⲧ**、**Ⲛⲟⲃⲧ**、アラビア語の「壁」を意味する *ṣaḥṭ* (صفت) の語源とされる (Sobhy 1950: 12)。上 21 ノ *Ṣaḥṭ al-Sharqīya* (*sbty*) など、上エジプト北部では少なくとも 5 集落にみられる (Gomaà et al. 1991: 101-103)。ほかにも、下 10 ノ *Al-Fu’ādiya* (旧名 *al-Kharāula*) (*sbty n*

p3 ḥꜣrw) など。1941 年でもエジプト国内に Ṣaṭṭ のついた集落は 19 もみられる (Maṣlaḥa al-Masāḥa 1941: 53)。

ḥnrt

「牢獄」も意味する語で、戦略的要塞地にも使われた。コプト語の *ϣENEETE*、アラビア語の *qal'a* (قلعة) や *sijn* (سجن) に相当するのであろう。

mktr, mgtr

「砦・監視塔」のある砦集落に使われた。「塔」を意味するミグドル (ḥṭḥ) が語源で、エジプト人が第 18 王朝ごろそれを借用したのであろう (Gardiner 1920: 108; Gardiner 1947: 2, 214)。ギリシア語では Μεστολ, コプト語の *MEOTOL*, *MICTOL* となった。アラビア語では *Mishtūl* (مشتل) と転化した (Sobhy 1950: 9)。下 14 ノ Tall al-Ḥair または下 14 ノ *Mishtūl* の地 (*mktr*)、ホルスの道第 3 駐屯地 (*mktr n mn mꜣrt rꜣ*) などデルタ東部の少なくとも 4 箇所には、この語が使われている (Gardiner 1920: 99-116; al-Ayedi 2006: 88)。

ḥtm

「印璽と関連した閉ざされた地」を意味する語で (Yusriya 'Abd al-'Aziz Ḥusnī 2003: 126)、国境の砦集落などに使われた。おそらく出入国業務をおこなう砦では、書類への印璽業務を必要としていたのであろう (al-Ayedi 2006: 142)。コプト語の *ϣWTM*、アラビア語の *khatm* (ختم) の語源とされる (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 108)。国境に位置する下 14 ノ Tall Abū Ṣaifa (*p3 ḥtm n ṭꜣrw*; *p3 ḥtm n wꜣt ḥr*) や上 1 ノ Bija の砦 (*p3 ḥtm n snmwṭ*)、上 10 ノ *ḥtm*、上 4 ノ *ḥtm n p3 ḥr* には、この語が使われている。

ṭꜣrt

原形 *ṭꜣr* は「きつくする・安全にする」を意味し (al-Ayedi 2006: 67)、それから砦集落などに使われた。例：下 14 ノ Tall Abū Ṣaifa (*ṭꜣrw*) など。

mḏr

壁を意味し、砦集落にも使われた。エジプトを意味するアラビア語の *Miṣr* (مصر) の語源とする説もある ('Abd al-'Aziz Ṣāliḥ 1962: 8)。

mnnw

例：上 1 ノ Bija (*mnnw snmwṭ*)、上 1 ノ Jazīra Aswān (*mnnw n ꜣbw*)。

tsmnt

塁壁を意味する。例：上 9 ノ al-Salāmūnī (*tsmnt*)。

戦闘

ḥꜣ

例：下 1 ノ *ḥr ḥꜣ*、上 4 ノ *ḏw nw ḥꜣ tꜣwi*、上 19 ノ *pr ḥꜣ*。

守護

sꜣ

sꜣ は、コプト語の *CO*, *ACO* に相当する。例：下 5 ノ Ṣā al-Ḥajar (*sꜣw*)、上 13 ノ *Asyūṭ* (*sꜣwty*)、上 14 ノ *Sāw* (*ḥwt nṯr sꜣw*)、ヌビア *Marsā al-Jawāsis* (*sꜣww*)。

勝利・力

nḥt, nḥt

砦の意味もある。例：「ホルスの道」の第 5 駐屯地 (*nḥtw n Mn-mꜣrt Rꜣ*)、第 9 駐屯地 (*nḥtw n Mn-mꜣrt Rꜣ*) (al-Ayedi 2006: 142)、上 16 ノ *Ṭihnā al-Jabal* (*tꜣ ṭhn wr nḥtw*)。

ḥm

shḥm には「王権・砦」の意味もある。例：ヌビアの *Samna* (*shḥm ḥr kꜣw rꜣ mꜣr ḥrw*)、上 13 ノ *pr shḥmi*。

弓

pḏt

例：ヌビアの *Kumma* (*itnw pḏwt*)。

鋸

ḥꜣwww

例：下 3 ノ *ḥꜣwww imn*、下 20 ノ *ḥꜣwww iꜣb*。

闘技場

mṭwn

例：ファ *mtwnyt*。

3) 神々・王権に関する集落地名

神々・王に関する集落名はじつに多い。

聖なるもの・神

nṯr

コプト語の *NOYṬ* に相当し、神聖な場所につけられた。*ḥr nṯr* は墓場を意味する語でもある。例：上 6 ノ *Dandara* (*tꜣ nṯrt*)、下 12 ノ *Samannūd* (*ṭb nṯr*)、下 17 ノ *Dinjiwāi* (*ṭb nṯr*)、上 5 ノ *nṯr*。

主

nb

*nb*はコプト語の **NEB**、アラビア語の *rabb* (رب) に相当する。例：下7ノ Al-ʿAḫf (*pr hɜ nb imnt*)、下16ノ Tall al-Rabʿ (*pr bɜ nb ddt*)、上15ノ *hwt nb*。

玉座

bḥdt

*bḥdt*はホルスと関連する語であることから、ホルス神殿のある町に称されたのであろう。上2ノ Idfū (*bḥdt Hr*) や 下17ノ Al-Balāmūn (*bḥdt*)、上8ノ Samhūd (*smɜ bḥdt*) などの主要都市名に使われている。

満足・奉納

(s)ḥtp

例：上10ノ Ṭaḥṭā (*hwt sḥtp*)、上11ノ Shṭb (*sɜs ḥtp*)、下1ノ Al-Muʿaṣṣara (*sḥtp ib Rr rnh*)、上9ノ *ḥtpt snfrw*。

崇敬

dwɜ

例：上11ノ *dwɜ snfrw*。

祝祭

ḥb

例：下12ノ Bahbīt al-Ḥijāra (*pr ḥbyt*)、上11ノ *ḥb snfrw*。

踊り

ibɜ

例：上16ノ *ibɜw snfrw*。

開通

wpt

例：フア *wpt s*、下3ノ *wp tɜ*。

町には必ず特定の市神 (*niwt ntr*) がいた。神がいること、それは都市成立の必須条件の1つであったといえる。古神が新しい神に置き換えられることも多いが、都市名には古神の名が残っていることが多い。例を示すと、シャ=上11ノ Shuṭb (*sɜs ḥtp*)、アンティ=上12ノ al-Aṭāula (*pr rnty*)、レピト=上9ノ Adrīb (*hwt Rpyt*)、ハア=下7ノ Al-ʿAḫf (*pr Hɜ nb imnt*)、ラー=下13ノ ʿAin Shams (*iwnw Rɜ*)、ネクベト=上3ノ al-Kāb (*pr Nhḥ*)、メンチュ=上4ノ Armant (*pr Mnṭw*)、ホルス=上2ノ Idfū (*pr Hr*)、ヘファト=上3ノ al-Muʿlla (*pr Hfɜt*)、コンス=上7ノ Bakhānis (*pr*

Hnsw)、トト=上15ノ al-Ashmūnain (*pr Dhwt*)、セペドゥ=下20ノ Ṣaḫt al-Ḥinna (*pr Spdw*)、ハピ=下13ノ Athar al-Nabī (*pr Hrpy*)、プタハ=下1ノ Minf (*hwt kɜ Ptḥ*)、ハトホル=上3ノ al-Jabalain (*pr Hthr*)、セケル=下1ノ Ṣaqqāra (*Skr*)、アンケト=上1ノ Bībān (*pr rnkṭ*)、セト=上7ノ al-Qaṣr wa al-Ṣayyād (*nɜ sny n Stḥ*)、アンホル=上8ノ al-Thīnī (*pr Inḥr*)、セベク=上8ノ al-Minshāt (*pr Sbk*)、ミン=上9ノ Akhmīm (*Mnw*)、アテン=上14ノ Tall al-Amarna (*ɜḥt Itn*)、アトム=下8ノ Tall al-Maskhūṭa (*pr Itm*)、イシス=下13ノ Bilbīs (*bɜr Ist*)、アメン=下17ノ Al-Balāmūn (*pr iw n Imn*)、アヌビス=下4ノ Kūm al-Kalba (*pr Inpw*)、ワプワアト=上13ノ Asyūt (*pr Wpwɜyt*)、ベヌ=上18ノ Al-Ḥība (*hwt Bnw*)、ウジャト=下6ノ Ibutū (Buṭū) (*pr Wɜdyt*)、ネイト=下5ノ Ṣā al-Ḥajar (*hwt Nt*)、バステト=下18ノ Tall Baṣṭa (*pr Bɜstt*)、アピス=下3ノ Abīs Al-Mustajidda (*niwt nt Hpy*) など。

とくにオシリス (*pr Wsir*) に由来する Abū Ṣīr の地名は、エジプト各地にみられる。ムハンマド・ラムジ (Muḥammad Ramzī) は5箇所 (Abū Ṣīr (al-Sidr), Abū Ṣīr al-Ṣughrā, Abū Ṣīr al-Malaq, Abū Ṣīr Bannā, Abū Ṣīr Dihnū) を記している (Muḥammad Ramzī 1953/54: Fihris, 24)。

ジェド柱・安定

ḏd

オシリスの脊椎を象ったとされる *ḏd* は、国・都市の平和を意味する (Seleem 2004: 70)。上21ノ Maidūm (*ḏd snfrw*)、下16ノ Tall al-Rabʿ (*ḏdt*)、下9ノ Abū Ṣīr Bannā (*ḏdw*)、上1ノ al-Kubbāniya (… *ḏd*)、フア *ḏdw* などに使われた。

ウアス

wɜs

例：上4ノ al-Uqṣr (*wɜs*)。

王子

ḥɜty

例：下1ノ *tɜ rṭ nt pt ḥɜty*。

imty

例：下19ノ Tall Nabasha (*imty phw*)。

4) 人体に関する集落地名

人体に関する語は、地理的な位置 (前後など) とも関連する。

頭

tp

tp は「頭、いわゆる先端地」を意味する。アラビア語の ra's (رأس) に相当する。例：上 22 ノ Aṭṭih (*tp ihw*)、ファ Umm al-Brijāt (*tp dbn*)。

dꜣdꜣ

dꜣdꜣ は「頭・頂点」を意味する。コプト語で ⲁⲱⲁ、アラビア語で shūsha (شوشة) と転化した (Sāmiḥ Maqqār 2009: 101)。例：上 7 ノ Abū Shūsha または Abū Tisht (*pr dꜣdꜣ*)。

tpn

例：上 21 ノ *pꜣ tbn*。

口

r

r はコプト語の ⲣⲱ、アラビア語の famm (فم) に相当する。「外国の地への入口 (*r-ꜣꜣ hꜣswt*)」、ワーディーの溪口に位置する谷口集落 (*r inty*) のように、沙漠のキャラバン・ルートの起点として、経済・交通の要所であった。氾濫の被害をほとんど受けない沙漠と平野との縁辺部はある程度天水にも依存し、農閑期におこなう狩猟や採集活動だけでなく、集落立地・作物栽培にも好都合であった (Trigger 1993: 24)。現在の地名の nazla (نزلة) は、もともとベドウィンが定住地を求めてやってきた地で、このような立地が多い。例：上 3 ノ al-Kāb (*r inty*)、上 20 ノ Al-Lāhūn (*r hnt*)、上 17 ノ Iṣṭabl 'Antar (*pr nbt r int*)。

顔

dhnt, thn

dhnt はコプト語の ⲉⲛⲧⲏ、アラビア語の saḥna (سحنة) と転化した (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 101)。岩壁などのある集落地につけられた。例：上 16 ノ Ṭihnā al-Jabal (*tꜣ dhnt*)、上 4 ノ (*tꜣ dhnt wrt nt imntt*)、上 21 ノ Ṭihnā (*thn n snꜣ hn*)。

hnt(y)

hnt(y) は「前面・南部」も意味する。*hnt s* は「樹木のある地」である。例：上 9 ノ Akhmīm (*hnt Mnw*)、下 1 ノ (*hnt nfr*)、上 17 ノ Busāt (*hnt nfr hry ib*)、上 1 ノ Jazīra Aswān (*hnt spꜣꜣwt smꜣwt*)、下 6 ノ Kūm al-Khanzīr (*pꜣ hnti n imn*)、上 13 ノ Asyūt (*ꜣtf hnt*)。

hꜣt

「最端」を意味する。コプト語の ⲕⲏ, ⲕⲏⲓ に相当する。例：

上 18 ノ Al-Hība (*hꜣt bnw*)、上 1 ノ Jazīra Aswān (*hꜣt niwt*)、上 5 ノ *hwt hꜣt*。

目

wꜣꜣt

「眼」、つまり「傷ついていないホルスの眼」を意味する。末期王朝時代・プトレマイオス朝にはエジプトをあらわす語としても使われた (Wb. I. 402)。例：下 6 ノ Tall al-Farā'in (*pr Wꜣꜣyt*)。

irt

コプト語で ⲉⲓⲁⲧ, ⲓⲁⲧ といわれる。*irt Rꜣ* はテーベの別称でもある (Budge 1920: 961) 例：上 12 ノ (*irt snfrw*)。

心臓

ib

アラビア語では lubb (لب) と転化した (Wb. I. 59)。例：*ist ib*、下 10 ノ *hwt ib*。

顎

ꜣrty

例：上 10 ノ *ꜣrty Hr*。

姿

twt

例：下 9 ノ Dahtūra (*hwt twt Rꜣ*)。

影

hꜣybt

例：上 3 ノ *hꜣybt Rꜣ*。

唾

pꜣgs

例：上 13 ノ *pꜣgs*。

足

sbꜣ

例：上 13 ノ *hwt sbꜣ*。

hnd

例：上 12 ノ *hndy*。

5) 生・死に関する集落地名

大きな都市に隣接した墓地は、一般的に葬祭殿や労働者の村、神官、番人などが住む大規模なネクロポリスを形成した。

カー

kə

「牡牛」をあらわす *kə* の語があるように、*kə* はもともと牛を意味する語であったと考えられ (‘Alī Fahamī Khshaim 1997: 2, 487)、下6ノ Shabbās al-Shhadā’ (*ḥsb kə*)、上17ノ Al-Qais (*səkə*) のように、牡牛の意味で使われていることも多い。例：上1ノ Bīga (*ḏw kə*)、上9ノ Al-Shaykh Makram (*ḥwt kə.k*)、下1ノ minf (*ḥwt kə pth*)。また *kə* には食物の意味もある。例：*kə n snfrw*。

生命

ṛnh

tə ṛnh は墓場を意味する語でもある。例：下1ノ Minf (*ṛnh tawi*)、下8ノ *ist ṛnh*、上16ノ Dair Samalūt (*mn ṛnh*)、上9ノ *pr ṛnh*、上13ノ *tə ṛnh*。

埋葬

ḥrs

コプト語の **καίρε**、アラビア語の *kursī* (كرسي) の語源とされる (Sāmīḥ Maqqār 2004/05: 2, 117)。例：上17ノ Qulūṣna? (*pr ḥrs wsir*)。

ミイラ

wt

例：上10ノ Būīt, Bāwīt (*pr wt*)。

再生

ḥpr

例：*pr n ḥpr*、*pr ḥpr ṛnh*。

誕生

ms

例：下2ノ Kafr Ṭuhrmis (*ḥwt ms*)、上11ノ Misrā (*ms Rr*)。

棺

hn

例：上5ノ *ḥwt hn*。

ピラミッド

mr

例：下9ノ Dahshūr (*niwt mrti ptn*)。

6) 生物に関する地名

特定の語はないが、神聖視された樹木や動物・魚は地名にも使われた。

牛

iḥt

牡牛を意味する。コプト語で **ⲉⲩⲏ**、アラビア語で *iḥ* (إح) と転化した。例：上22ノ Aṭfīḥ (*pr nbt tp iḥt*)、下2ノ Ṣaṭṭ al-Laban (*niwt nt iḥt*)、下3ノ *ḥwt iḥyt*、上18ノ *niwt nt iḥt*、下8ノ *ist nt iḥt*。

ng

水牛を意味する。例：上3ノ Maṭā’ina (*rgny*)、上2ノ・下13ノ *ist nt ng*、下1ノ *dmi ngzw*。

ṭb

子牛を意味する。例：下12ノ Samannūd (*ṭb ntr*)。

羊

bə

例：下11ノ Ṭūkh al-Qarāmuṣ (*ist bəw*)。

rḥnt

例：下1ノ Mīt Rahīna (*mit rḥnt*)。

ウサギ

wn

上15ノ Al-Ashmūnain (*wnt*)、上15ノ Tūna al-Jabal (*tə wnt*)、上15ノ *wnt smri*、下6ノ *wnw mḥti*。*wnt* は砦も意味し、アジアにおける砦集落にも使われた。上6ノにセト神の誕生地とされる集落 (*wnt*) があった (Gauthier 1925-31: 2, 31)。

ワニ

mg

例：下11ノ *pr mg*。

sw

例：上4ノ *iw sw*、上8ノ al-Minshāh (*pr swi*)。

ik

例：上6ノ *ist ik*。

sbk

ワニの神セバクと関連する。現在でもデルタのモノフィーヤ県、ガルビーヤ県では (Subk al-Talāt, Subk al-Aḥad, Subk al-Ḍaḥāk など) のように、*sbk* のついた地名が多くみられる。例：上4ノ Dimqrāt (*iw sbk*)。

カバ

db

例：下 16 ノ Tall al-Rab' (*iʔt idb*)、上 13 ノ ? (*niwt nt db*)、下 11 ノ *iʔt idb*。

ライオン

mʔi, mʔhs

例：下 17 ノ *niwt nt mʔhs*、下 11 ノ Tall al-Muqdām (*mʔhs*)、
(*tʔ t pʔ mʔi*)、上 17 ノ *pr mʔw*。

ジャッカル

inpw

例：下 4 ノ Kūm al-Kalba (*pr inpw*)、上 17 ノ *inpw*。

ガゼル

ghs

例：上 3 ノ *ghsti*。

オリックス

mht

例：上 15 ノ *mht*、上 15 ノ *hwt mht*。

蛇

hfʔw

コプト語の **ϣⲟⲩ**、アラビア語の *afan* (أفعى) の語源とされる (‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 163)。例：上 3 ノ al-Mu’llah (*pr hfʔw*)。

rh

例：上 6 ノ *hwt rh*。

iʔrt

コプト語で **ⲟⲩⲣⲱ** と転化した。例：*hwt iʔrrt*。

カエル

kr

例：下 2 ノ Dikrūr (*tʔ kr*)。

ハヤブサ

bik

例：上 4 ノ *pʔ bik*、*niwt nt bik*、下 11 ノ *bikwy*。

hr

コプト語で **ϣⲱⲡ**、アラビア語で *hr* (حر) と転化した。例：上 15 ノ Hūr (*hr wr*)。

フェニックス

bnw

例：下 16 ノ・上 18 ノ *hwt bnw*。

蜂

bit

下エジプトの王を象徴しているともいえる。例：下 6 ノ **ϣⲉⲙⲙⲓⲥ** (*ʔh bit*)、下 11 ノ Hurbīṭ (*hr bit*)。

サソリ

srkt

例：下 13 ノ *shṭ srkt*、*tʔ srkt*、下 20 ノ *s srkt*。

象

ʔbw

例：上 1 ノ Jazīra Aswān (*ʔbw*)。

ムカデ

spʔ

例：下 13 ノ *pr spʔ*。

鳥

tʔ

コプト語の **ϣⲟⲩⲩⲟⲩ**、アラビア語の *zrzūr* (زرزور) の語源と考えられる。例：上 3 ノ *iʔt tʔty*、上 3 ノ *pʔ tʔty*、上 20 ノ *iʔt tʔt*。

ティラピア

rmw

コプト語で **ⲣⲁⲙⲓ**、アラビア語で *rmrūm* (رمروم) と転化した (Youssef 2003: 90)。例：下 11 ノ Tall al-Muqdām (*tnt rmw*、*tr rmw*)、下 2 ノ *rmwi*。

魚 (ボルティ)

int

例：上 8 ノ *int*、*int hsi*。

イチジク

nht

イチジクはヌトやハトホルに関連する神聖な木で、コプト語では **ⲛⲟⲩⲧⲉ**、アラビア語では *nūha* (نوهة) と転化した (Sobhy 1950: 10)。例：下 10 ノ Banhā (*pʔ n nht*)、下 1 ノ Minf (*nht*)、上 17 ノ Bardanūhā (*nht*)。

アカシア

šndt

デモティックで *šntt*、コプト語の **ϣⲟⲛⲧⲉ**、アラビア語の *sanṭ* (سنت) の語源となっている (*Wb.* IV. 4, 521; Sobhy 1950: 14)。例: 上 8 ノ *šndt*、*tt m šndt*。

ロータス

sšn

コプト語の **ϣⲟⲩⲛ**。例: 下 5 ノ Al-Shīn (*pr sšn*)。

キリスト・イバラ

nbs

アラビア語の *nabaq* (نبق) の語源とされる。例: 上 20 ノ・下 20 ノ *ḥwt nbs*、下 20 ノ *ist nbs*。

ナツメヤシ

nʿrt

例: 上 20 ノ Ifnāsyā (*nʿrt ḥntt*)。

imʔ、*iʔmt*

例: オアシス *šḥt imw*、*imt*、下 11 ノ Kūm al-Ḥiṣn (*imw*)。

オリーブ

ḏt

コプト語で **ϣⲟⲩⲧ**、アラビア語で *zait* (زيت) と転化した (Amélineau 1893: 329; *Wb.* V. 618)。例: 上 20 ノ Al-Zaitūn (*ḏdtw*)。

モリンガ

bʔk

例: 下 13 ノ *ḥwt bʔk*。

ヘンナ

ḥnw

アラビア語で *ḥinna* (حنة) と転化した。例: 下 20 ノ Ṣaḥṭ al-Ḥinna (*ṣḥtiw ḥnw*)。

芽

rd

例: 上 16 ノ *iw rd*。

花

ḥrrwt

コプト語で **ϣⲣⲣⲉ**、アラビア語で *ḥarir* (حرير) と転化した。例: *ḥrrwt*。

パピルス

mnḥ

例: 下 3 ノ *šʔ mnḥ*。

twfi

例: *pʔ twf*。

ʔḥ

パピルスの茂みを意味する。氾濫の *ʔḥ* から派生した語とされる。例: 下 6 ノ *Χέμμυς* (*ʔḥ bit*)。

7) 商工業や生活用品・鉱物に関する集落地名

特定の語はないが、生活必需品・製品の原材料となる鉱物の名がよくみられる。

交易

swnw

都市は物の集積・取引 (*swn*, **ϣⲟⲩⲧ**) をもとに成立するともいえる。例: 上 1 ノ Aswān (*swnw*)。

亜麻

pḥs

例: 下 13 ノ *ist pḥs*。

鋳物

msn

「鋳物」を意味するとも (Sāmiḥ Maqqār 2006: 146)、神殿内でホルス神に関連する宗教的な道具の一つ、鋳ともいわれる (Naviile 1924: 24)。国境上の集落などによく使われた。例: 上 14 ノ Tall Abū Ṣaifa (*msn*)、上 1 ノ *msn*、上 18 ノ *ḥwt msn*。

金

nbw

コプト語で **ⲛⲟⲩⲃ**、アラビア語で *nūb* (نوب) (Sāmiḥ Maqqār 2004/05: 1, 170) と転化した。ヌビアや東部沙漠地域では金採掘が盛んで、多くの金鉱都市、金集積都市が発展した。「金」を意味する *nbw* の名をもった都市が多くみられることからわかる。例: 上 1 ノ Kūm Umbū (*nbyṭ*) や 上 5 ノ Naqāda (*nbyṭ*)、上 15 ノ Ḥatnūb (*ḥwt nbw*)、上 5 ノ Abnūb (*pr Ḥr nbw*)、上 12 ノ al-Aṭāula (*pr Ḥr nbw*)、*niwt nt nbw*。

砂

šʕy

例: 下 3 ノ Darshāi (*ḥwt šw*)、*pr mnw nb šʕy*、*ḥwt*

ns、フア *šꜥ mḥt nt ḥnt*。

塩

ḥmꜣt

例：下 3 ノ Σχναθις (*šḥt ḥmꜣt*)。

石

inr

コプト語で **ⲱⲛⲉ**。例：上 3 ノ al-Jabalain (*inrty*)、上 16 ノ Iṣṭabl Antar (*ḥwt nṯr inrt*)。

砂岩

bnwt

例：上 5 ノ Abnūd (*bnwt*)。

大理石

gsꜣ

例：上 5 ノ Qūṣ (*gsꜣ*)。

トルコ石

mfkt

例：下 3 ノ (*šḥt mfkt*, *fk*)、下 3 ノ Kūm Abū Billū (*pr ḥwt ḥr nbt mfkt*)。

アラバスター

šs

例：上 16 ノ Ἀλαβάστρων πόλις (*pr šs*)。

鉱山

bia

プトレマイオス朝にはエジプトをあらわす語にもなっている (*Wb. I. 442.5*)。例：シナイ *biꜣ*。

火・炎

sḏt

例：フア *ḥwt sḏt*。

sisi

例：上 15 ノ *iw n sisi*。

bs

例：*pr n bist*。

サンダル

ṯbw

例：上 9 ノ Idfā (*ṯbw*)、下 14 ノ Tall Abū Ṣaifa (*ṯbw*)、

上 10 ノ Kūm Isfaḥt (*ṯbw*)、上 14 ノ ? *ṯbs snfrw*。

秤

mḥꜣt

コプト語で **ⲙⲁⲩⲱⲓ**、アラビア語で māshī (ماشي) と転化した。例：下 1 ノ Minf (*mḥꜣt ṯꜣwi*)。

皿

iꜣgt

例：上 19 ノ *iꜣgt Snfrw*。

網

ibt

例：上 15 ノ *ḥwt ibt*。

šnw

例：下 2 ノ *ḥwt šnw*。

ナトローン

ḥsmn

コプト語で **ⲕⲟⲙ**。例：上 3 ノ *int ḥsmn*、*ḥwt ḥsmn*、ヌビア *ḥꜣst nt ḥsmn*、上 18 ノ *š ḥsmn*。

(ブドウ・油) 絞り

mḏḏ

例：上 19 ノ al-Bahnasā (*pr mḏḏ*)、上 11 ノ Rīfa (*mḏḏ*)。

ナイフ

ds

例：下 16 ノ *iꜣt ds*、下 20 ノ *iꜣt dsw*。

mynit

例：上 22 ノ *mdnit*。

シストラム

例：上 7 ノ Hiū (*ḥwt sꜣꜣt*、*ḥwt sḥm*)、上 13 ノ *pr sḥmy*。

8) 国王に関する集落地名

特定の語はないが、国王の所領などにその名が記された。とくに賢王とされた王の名前は、かなりの都市名に残っている。

王

nsw(ṯ)

nsw(ṯ) は王権と関連する地に使われた。例：上 20 ノ

Ifnāsyā (*ḥwt nn nsw*)、上18ノ Al-Kūm al-Aḥmar Sawāris (*ḥwt nsw*)、下5ノ Šā al-Ḥajar (*pr nsw*)。

支配者

ḥkꜣ

*ḥkꜣ*には「呪術」も意味もあり、また *ḥkꜣ ḥwt* は「町の長老」を意味する語でもある (Faulker 1964: 178)。例：上2ノ Idfū (*ḥwt ḥkꜣ*)、*inbw ḥkꜣ*、下13ノ *ḥkꜣ rndw*。

王威

ḥm

例：下6ノ *ḥḥ ḥm Hr*。

スネフェル

snfrw

*snfrw*の地名は、エジプト各地で数多くみられた。P. モンテ (Montet) によれば、*snfrw*の地名はエジプト各地に26も分布した (Montet 1956, 1961)。例：上21ノ Maidūm (*dd snfrw*)、上3ノ Aṣfūn al-Maṭā'ina (*ḥwt snfrw*)、上10ノ *mnt snfrw*。

サフラー

sḥwrr

例：下1ノ Ṣaqqāra (*sḥwrr*)、下13ノ Sandanhūr (*ḥwt sḥwrr wr*)、上3ノ Isnā (*wḥḥ sḥwrr*)。

アメネムハト

imnmḥꜣt

例：上7ノ *ḥwt wrt imnmḥꜣt*、フア *nfr imnmḥꜣt*。

ラムセス

rꜥmss

ラムセスの地名もモンテによると、9みられる (Montet 1956, 1961)。例：下7ノ Ramsīs (*ḥwt nt rꜥmss*)。

ウナス

wnis

例：上8ノ *ḥwt wnis mꜣr ḥrw*。

そのほかにも、ウセルカフ、ペピ、クフ、アメンヘテプ、センウセルト、トトメス、セティ1世など多くの国王名が集落名にみられる。

9) 人物名・家族・職業集団などに関する集落地名
貴人

sr

王子の意味もある。例：下13ノ *ḥwt sr*、下13ノ 'Ain Shams (*ḥwt sr*)。

婦人

špst

高貴な婦人を指す。例：*ḥwt špst*。

ḥmt

コプト語で *ⲕⲓⲙⲉ*、例：*ḥwt ḥmw*。

長老

smsw

例：下7ノ Lūqīn (*ḥwt smsw*)、上3ノ *ḥwt smsw*、下4ノ *pr smsw*。

父

it

「上・先立つもの」を意味する *tp*に関連すると考えられる ('Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 116)。例：上3ノ *ḥwt it*、下5ノ *ns it.f*。

母

mw

例：*mw ntꜣr*。

子

nn

コプト語で *ⲛⲟⲩⲛⲉ* (*ⲟⲩ*)、アラビア語で *nūnū* (نونو) と転化した。例：上20ノ Ifnāsyā (*nn nswt*)。

男

ṯꜣy

例：下12ノ *ṯꜣt ṯꜣy*。

乳母

mn't

例：上16ノ Al-Minyā (*mn't ḥwfw*)、上16ノ *mn't snfrw*。

ḥnmt

例：上16ノ *ḥnmt snfrw*。

酔っ払い

th

コプト語で ⲧⲉ、アラビア語で Ṭīna (طينة) と転化した。
例：上 6 ノ Dandara (*ist th, hwt th*)。

漁師

h3mw

例：下 7 ノ *h3mw*。

h3mt

釣り进行意味する。例：上 15 ノ *h3mt snfrw*。

ハンター

whrw

例：上 12 ノ *ww n whrw*。

洗濯屋

rhiti

例：下 16 ノ *rhiti, iw n rhiti*。

10) 外国の民族・制圧・武器などに関する集落地名

エジプト領域外に造られた砦などでは被征服民の名前も
多くみられる。

黒人

nh3sy

例：下 14 ノ *t3 hwt p3 nh3sy*、Bilhasāi (*p n n3 nh3sy*)?、上
20 ノ *bhn n p3 nh3sy*

メジャイ

md3w

例：ヌビアの Faras (*hsf md3w*)。

ヌビア人

iwntyw

例：ヌビアの Urūnārṭi (*hsf iwntyw*)。

外国 (人)

h3st

エジプト領域外の集落には *h3st + (nt)...* の地名が数多く
見られる。*h3st* には「沙漠」の意味もある (Gardiner
1947: 2, 185)。例：下 6 ノ Sakhā (*h3sww*)、下 5 ノ *n3 pr*
n n3 h3swt rsw。

人間

rhyt

とくに (下エジプトの) エジプト人を指す。例：下 4 ノ
sn rhyt。

オアシス住民

wh3tyw

例：*dr wtiw*。

懲罰

hsf

例：ヌビアの Faras (*hsf md3w*)、Urūnārṭi (*hsf iwntyw*)。

鎮圧

dr, d3r

例：ヌビア Mirjissa? (*dr wtiw*)。

11) 人間や神々の特性を示す語

美しい

nfr

コプト語で ⲛⲟⲩⲩ、アラビア語で nūf (نوف) と転化した。
例：上 1 ノ Minf (*mn nfr*)、上 20 ノ Nuwaira (*nfrt*)、
下 4 ノ Binūfar (*iw nfrw*)。

神聖

dsr

t3 dsr が墓場を意味するように死者とも関係する。例：
上 8 ノ *t3 dsr*、Dair al-Baḥarī (*dsry*)、下 6 ノ *i3t dsr*

真実

m3rt

例：上 2 ノ Idfū (*i3t m3rt*)、下 9 ノ *h3nw n m3rt*。

wrb

清潔

神殿のある聖域といえる。例：上 1 ノ Bija (*i3t wrbt*)、
上 14 ノ Sanabū (*st n wrbt*)、上 22 ノ *sh3t wrbt*。

完璧

mnḥ

例：下 1 ノ Minshāt Dahshūr (*mnḥ*)。

神秘

st3t

例：*int st3t*、下 18 ノ *hm st3 n Wsr*。

価値ある

ikr

例：下15ノ *pr ikr*。

永遠

nhh

例：下20ノ *h h*。

勇敢

kni

例：*hwt knw*。

甘い

bnr

コプト語で **BNNH**、アラビア語で *binnī* (بني) と転化した (Sobhy 1950: 5)。例：下14ノ *t bnr*。

12) 数字や色などに関する語

黒

km

「エジプト」を意味する *kmt*、*kmi* も、この語から派生している。*kmt* は正確にいうと「黒い土地」ではなく、*km*(黒) + *t* (女性形) で、「黒」を意味する (‘Abd al-‘Azīz Ṣāliḥ 1962: 1; Faulkner 1964: 286; ‘Alī Fahamī Khshaim 1998: 1, 233)。「黒い (地)」は都市化された地・文明化された地、いわゆるエジプトを表わす語であり、その地域は、都市・村邑・耕地・水路・道路・樹木を含めた人間のすべての生活空間を意味している。都市のある地、いわゆるエジプトは水のあるナイルの流域に限られていたことがわかる。首都の意味でも使用されていた (Amélineau 1893: 223-225; Lichtheim 1975-80: 1,170)。また *km* は、牡牛の意味でも使われた。例：*kmt*、下10ノ *ih km*。下10ノ Tall Atrīb (*k km*)、上20ノ *km wr*。

赤

dśr

赤は沙漠も意味する。「赤い (地)」を意味する *dśrt* は、「沙漠・未知の国・アエクメーネ (aecmene) の地」を意味している。古代エジプトの宇宙観で言えば、沙漠は人の入り込めない荒涼とした地で、セト以外の神々の寄り付かない外界であった。そこは野蛮な民が住む悪霊の地で、明らかに恵みあるエジプトの地ではなかった。例：下13ノ al-Jabal al-Aḥmar (*dw dśr*)、下6ノ Nashart (*pr dśrt*)、上3ノ *s dśr*、*hwt nt dśrt*。

白

hđ

コプト語で **ⲡⲣⲟⲩ**、**ⲉⲣⲟⲩ** に相当する。例：下1ノ Minf (*inb hđ*)、上3ノ *t hđ*、下5ノ Ṣā al-Ḥajar (*s w m t n hđ*)、下14ノ *hwt k hđ*。

緑

wđt

コプト語の **Ⲙⲁⲧ**、**Ⲙⲉⲧ** に相当する。例：ファ *shwt wđwt*、ファ *wđ wr*、ファ *sh t wđt*、上16ノ *wđ snfrw*。

8

hmn

例：上15ノ Al-Ashmūnain (*hwt hmnw*)。

9

psđ

「9柱神」を意味する *psdt* がよく使われた。例：下13ノ *pr psdt ntrw*、下13ノ *hwt psdt ntrw*。

100万

hh

無数を意味する。例：上8ノ *hwt spst nt hh n rnpt n ns w bity mn m t R*。

大きい

wr

wr を使った地名は数多くある。例：ファ *niwt wrt*、上15ノ *st wrt*。

ʿst

ʿst を使った地名は数多くある。例：下10ノ・下13ノ *hwt ʿst*。

小さい

ndst

例：上20ノ *hwt ndst*。

まとめ

集落地名をみると、その名前の意味や頻度から以下のような特性がみられる。これらは古代エジプトの集落の特性の一部ともいえる。

1. 集落地名、とくに都市の神聖名には、都市の大神殿の
名前 (*pr* 又は *hwt* + 神) がそのまま使われている。地
域で神聖視された動植物の名がつけられていても、そ

れらは守護神と関連する崇拜対象物であった。古代エジプト人にとって、都市とは神々のいる場であり、自然と信者が集まってくる場であった。また都市は水路で土地が張り巡らされ、治安も行きとどいているユートピアを目指したものといえる。

2. 都市の通俗名には、自然地形など文字通りその場所の特性を表した語が使われた。自然地名の多くは、土地と水に関連するものである。
3. 農業の盛んな地域では土地利用に関する地名がよくみられる。それは集落が農業と深く関連していたことを示している。
4. 戦略拠点や国境などでは武器・砦の語を使った地名がよくみられる。多くの防御の砦集落が発展したことがわかる。
5. スビアなどエジプトの領域外の砦集落では被征服民族の名とともに制圧や撃退といった敵を威嚇するような集落名がみられる。
6. キャラバン・ルートなどでは水場に関連する集落地名が多い。ルート上に水場集落が点在していたことがわかる。
7. 歴史的に賢王とされる国王の名は好んで集落に命名され、長い期間その名が生き続いた。
8. 王権に関連した地名も、数多くみられる。
9. 交通や商工業（市場、交易の場（物資の流通、手工業）の地名が、交通のアクセス（河港、キャラバン・ルートの起点）のよい集落でよくみられる。
10. 穀倉に因んだ地名も、数多くみられる。
11. 都市と農村との区別がそれほど明確でない。

参考文献

- ʿAbd al-ʿAzīz Ṣāliḥ 1962 *Ḥaḍāra Miṣr al-Qadīma*. al-Qāhira, Maktaba al-Anḡlū al-Miṣriya.
- ʿAbd al-Ḥalīm Nūr al-Dīn 2000 *al-Lūgha al-Miṣriya al-Qadīma*. al-Iskandriya, al-Kharīj al-ʿArabī lil-Ṭibāʿa wa al-Nashr.
- ʿĀdil al-Said ʿAbd al-ʿAzīz 2009 *ṭ ʿnḥ*. In Bāsīm Samīr al-Sharaqāwī (ed.), *Al-Ufq Dirāsāt fī ʿIlm al-Miṣriyāt*. al-Qāhira, al-Majlis al-Aʿlā lil-Thaqāfa 1: 403.
- Aḥmad Amīn Salīm 1992 *al-Sujūn fī Miṣr al-Faraʿūniya, Majalla Kulīyat al-Ādāb*, al-Iskandriya, Jāmiʿa al-Iskandriya 39: 228-288.
- ʿAlī Fahamī Khshaim 1998 *Āliha Miṣr al-ʿArabīya*. al-Qāhira, al-Haiʿa al-Miṣriya al-ʿĀmma lil-Kitāb, 2 vols.
- ʿAlī Fahamī Khshaim 2001 *Riḥla al-Kalimāt*. al-Qāhira, Markaz al-Ḥaḍāra al-ʿArabīya.
- al-Kindī d.9C. *Faḍāʾil Miṣr* (Taḥqīq Ibrāhīm Aḥmad al-ʿAdawī wa ʿAlī Muḥammad ʿUmar, al-Qāhira, Maktaba Wahaba, 1971).
- Aly, M. I. 2009 The Scene of the Local Market in Pharaonic Egypt (An Analytic Study). In K. Daoud and S. Bedier and S. Abd El-Fatah (eds), *Studies in Honor of Ali Radwan*. Cairo, Supreme Council of Antiquities 1: 79-100.
- Amélineau, E. 1893 *La géographie de l'Égypte à l'époque Copte*, Paris,

Imprimerie Nationale.

- Atallah, M. 2000/01 Some Aspects of Relations between the Ancient Egyptian Language and Arabic. *Annals du Service des Antiquités de L'Égypte* 76: 113-124.
- al-Ayedi, A. R. 2006 *The Inscriptions of the Ways of Horus*. Ismailia, Obelisk Publication.
- Billing, N. 2003 Text and Tomb: Some Spatial Properties of Nut in the Pyramid Texts. In Z. Hawass (ed.), *Egyptology at the Dawn of the Twenty-first Century, Proceedings of the Eighth International Congress of Egyptologists Cairo, 2000*. The American University in Cairo Press 2 (History, Religion): 129-136.
- Budge, E. A. W. 1920 *An Egyptian Hieroglyphic Dictionary*. London, John Murray (Reprinted in Dover, New York, 1978).
- Černý, J. 1973 *A Community of Workmen at Thebes in the Ramesside Period*. Caïre, Institut Français d'Archéologie Orientale.
- Černý, J. 1976 *Coptic Etymological Dictionary*. Cambridge, Cambridge University Press.
- Crum, W. E. 1990 *A Coptic Dictionary*, Oxford, Clarendon.
- El Aguizy, O. (ed.) 2008 *Dictionary of Ancient Egyptian Determinatives*. Cairo, El-Safa Press.
- El-Daly, O. 2005 *Egyptology: The Missing Millennium*. London, UCL Press.
- Erman, A. and H. Grapow 1926-1955 *Wörterbuch der ägyptischen Sprache*, Leipzig, J. C. Hinrichs.
- Eyre, C. J. 1987 Work and the Organization of Work in the Old Kingdom. In M. Powell (ed.), *Labor in the Ancient Near East*. New Haven, American Oriental Series 68: 1-48.
- Eyre, C. J. 1994 The Water Regime for Orchards and Plantation in Pharaonic Egypt. *Journal of Egyptian Archaeology* 80: 57-80.
- Faulkner, R. O. 1964 *A Concise Dictionary of Middle Egyptian*. Oxford, Oxford University Press.
- Faulkner, R. O. 1973 *The Ancient Egyptian Coffin Texts*. Warminster, Aris & Phillips.
- Gardiner, A. H. 1920 The Ancient Military Road between Egypt and Palestine. *Journal of Egyptian Archaeology* 6: 99-116.
- Gardiner, A. H. 1947 *Ancient Egyptian Onomastica*. Oxford, Oxford University Press, 2 Vols.
- Gardiner, A. H. 1957 *Egyptian Grammar* (3rd ed.). Oxford, Griffith Institute.
- Gauthier, H. 1925-31 *Dictionnaire des noms géographiques contenus dans les textes hiéroglyphiques*. Osnabruck, Otto Zeller Verlag, 1975.
- Gomaà, F. 1974 *Die libyschen Fürstentümer des Deltas vom Tod Osorkons II. bis zur Wiedervereinigung Ägyptens durch Psametik I*, Wiesbaden, Dr Ludwig Reichert Verlag.
- Gomaà, F. 1980 *Ägypten während der Ersten Zwischenzeit*. Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag.
- Gomaà, F. 1986. *Die Besiedlung Ägyptens während des Mittleren Reiches, I: Oberägypten und das Fayyūm*. Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlage.
- Gomaà, F. 1987 *Die Besiedlung Ägyptens während des Mittleren Reiches, II: Unterägypten und die angrenzenden Gebiete*. Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag.
- Gomaà, F., R. Muller-Wollermann and W. Schenkel 1991 *Mittelägypten zwischen Samalut und dem Gabal Abū Šīr*. Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag.
- Hassan, F. 2001 Cities. In D. B. Redford (ed.), *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*. New York, Oxford University Press, 1: 268-73.
- Hock, J. E. 1997 *Middle Egyptian Grammar*. Mississauga, Benben.
- Ibn Manzūr d.1311 *Liṣān al-ʿArab*. Bairūt, Dār Ṣādir, 1994.
- Ibn Zāhira d.1486 *al-Fadāʾil al-Bāhira fī Maḥāsini Miṣr wa al-Qāhira*. (Taḥqīq

- Muṣṭafā al-Saqā, Kāmil al-Muhandes, al-Qāhira, Dār al-Kutb, 1969).
- Jamāl Ḥamdān 1981-84 *Shakhṣīya Miṣr*. al-Qāhira, 'Ālam al-Kutub, 2 Vols.
- Kaper, O. E. 1992 Egyptian Toponyms of Dakhla Oasis, *Fr. Archeol. Orientale* 92: 117-132.
- Kessler, D. 1981 *Historische topographie der Region zwischen Mallawi und Samalut*. Wiesbaden, TAVO Beiheft 30.
- Khālīd Aḥmad Ḥamza 2007 *Makhāzin al-Ghilāl fī Miṣr al-Qadīma*. al-Qāhira, 'Ain lil-Dirāsāt wa al-Baḥūth al-Insāniya wa al-Ijtimā'iya.
- Lichtheim, M. 1975-80 *Ancient Egyptian Literature*. Berkeley, University of California Press, 3 vols.
- Mamdūḥ Muḥammad Al-Damāṭī 2002 Luḥatain li-Taḡaddama al-*sh't* bi-al-Maṭḥaf al-Miṣrī. In M. Eldamaty and M. Trad (eds), *Egyptian Museum Collections around the World*. Cairo, Supreme Council of Antiquities, 2 vols.
- Maṣlaḥa al-Masāḥa 1941 *Al-Dalīl al-Jiūghrāfi li-Asmā' al-Mudn wa al-Nawāḥi al-Miṣrīya*. al-Qāhira, al-Maṭba'a al-Amīriya.
- Maspero, G. and G. Wiet 1919 *Matériaux pour servir a la géographie de l'Égypte*. Caire, L'Institut Français d'Archéologie Orientale.
- Meeks, D. 1977-79 *Année lexicographique, Égypte ancienne*. Paris, Cybele.
- Meyers, E. M. (ed.) 1997 *The Oxford Encyclopedia of Archaeology in the Near East*. Oxford, Oxford University Press.
- Montet, P. 1956 *Géographie de l'Égypte ancienne, To-mehou, la Basse-Égypte*. Paris, Klincksieck.
- Montet, P. 1961 *Géographie de l'Égypte ancienne, II. To-chemā, la Haute*. Paris, Klincksieck.
- Mu'awaḍ Dāwūd 2000 *Qāmūs al-Lūgha al-Qubṭīya*, al-Qāhira, Maṭba'a al-Markaz al-Miṣrī lil-Ṭibā'a.
- Muḥammad Mutawallī Badr 1955 *al-Lūgha al-Nūbīya*, al-Qāhira, Dār Miṣr lil-Ṭibā'a.
- Muḥammad Ramzī 1953-54 *al-Qāmūs al-Jiūghrāfi lil-Miṣrīya fī 'Uhd Qudamā' lil-Miṣryīn ilā Sana 1945, Fihris* (al-Qāhira, Dār al-Kutb al-Miṣrīya, 1994, 6 vols.).
- Nadīm al-Sattār 2003 *laisū Āliha wa lākin. Malā'ika*. al-Qāhira, al-Mu'alif.
- Naville, É. 1924 The Geography of the Exodus. *Journal of Egyptian Archaeology* 10: 18-39.
- O'Connor, D. 1972 The Geography of Settlement in Ancient Egypt. In P. Ucko, R. Tringham and G. W. Dimbleby (eds), *Man, Settlement and Urbanism*. London, Duckworth, 681-698.
- Parkinson, R. B. 1991 *Voices from Ancient Egypt*. London, British Museum Press.
- Ramaḍān 'Abduḥ 'Alī 2002 *Mausū'a Ḥaḍāra Miṣr al-Qadīma*. al-Qāhira, Dār Nahaḍa al-Sharq, Vol.1.
- Ramaḍān al-Sayyid 1988 *Tārīkh Miṣr al-Qadīma*. al-Qāhira, Majlis al-A'lā lil-Āthār, 2 vols.
- Salīm Ḥasan 1947 *Aqsām Miṣr al-Jiūghrāfiya fī al-'Uhd al-Fara'unī*. al-Qāhira, Maṭba'a Lajna at-Ta'līf wa al-Tarjma wa al-Nashr.
- Sāmiḥ Maqqār 2004/05 *Aṣl al-Ālfāz al-'Āmiya min al-Lūgha al-Miṣrīya al-Qadīma*. al-Qāhira, al-Hai'a al-Miṣrīya al-'Āmma lil-Kitāb, 3 vols.
- Sāmiḥ Maqqār 2006 *Al-Lahaja al-'Āmiya wa Judhūrha al-Miṣrīya al-Qadīma*. al-Qāhira, Maktaba Madbūrī.
- Sāmiḥ Maqqār 2007 *Al-Mu'ajam al-Wajīz*. al-Qāhira, al-Hai'a al-Miṣrīya al-'Āmma lil-Kitāb.
- Sāmiḥ Maqqār 2009 *Gharā'ib al-Ta'abīrāt wa al-Amthāl al-Sha'abīya*. al-Qāhira, al-Hai'a al-Miṣrīya al-'Āmma lil-Kitāb.
- Seleem, R. 2004 *The Egyptian Book of Life*. London, Watkins.
- Shaw, I. 2003 Towns and Houses. In D. P. Silverman (ed.), *Ancient Egypt*. Oxford, Oxford University Press.
- Shehab al-Din, T. 2000/01 The Terms "Village" and "Town" in Ancient Egypt and Its Conformity with the Modern Egyptian Concept. *Annals du Service des Antiquités de L'Égypte* 76: 173-178.
- Sobhy, G. 1950 *Common Words in the Spoken Arabic of Egypt, of Greek or Coptic Origin* (Reprinted by S. Basilios, Cairo, 1989).
- Stadelmann, R. 2001 Palaces. In D. Redford (ed.), *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*. New York, Oxford University Press: 3, 13-7.
- Timm, S. 1984 *Das christlich - koptische Ägypten in arabischer Zeit*. Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag.
- Trigger, B. G. 1993 *Early Civilization: Ancient Egypt in Context*. Cairo, The American University in Cairo Press.
- Uphill, P. 1988 *Egyptian Towns and Cities*. Alyesbury, Shire.
- Yaḥyā 'Abābina 2003 *al-Lūgha al-Kana'āniya*. 'Ammān, Dār Majdalāwī lil-Nashr wa al-Tauzī'u.
- Youssef, A. A. H. 1999 Etymological and Philological Studies. *Annals du Service des Antiquités de L'Égypte* 74: 83-90.
- Youssef, A. A. H. 2003 *From Pharaoh's Lips*. Cairo, The American University in Cairo Press.
- Yūsriya 'Abd al-'Azīz Ḥusnī 2003 *Al-Madkhl al-Sharqī li-Miṣr*. al-Qāhira, Hallā lil-Nashr wa al-Tauzī'u.
- 吉成 薫 1985「古代エジプトの都市」『オリエント』28巻1号 182頁。

古谷野 晃
Akira KOYANO